

2017年9月20日付け公開質問状「鎌倉市における図書館行政のあり方について」  
＜岩田かおるさんのご回答＞ 2017.10.1

1. 鎌倉市の文化・教育行政において図書館が担っている基本的な役割とは何であるとお考えになりますか。

知は市民を解放する、とのコンセプトに立ち、市民の文化に寄せるニーズに答えるものでなければならない。

2. 鎌倉市の図書館には5年単位のサービス計画はありますが、長期的な視野に立ったビジョンは確立されていません。昨年、当会では目指すべき鎌倉の将来像（ビジョン）の確立を求めて議会に陳情し採択されましたが（添付資料参照）、このことについてどうお考えでしょうか。

キチンとしたビジョンの確立につとめるべきである。  
目指すべき地域館像の提示はすべきだと考える。

3. 市の図書館は他の同規模自治体と比較して、貸出密度（市の人口と貸出冊数の比）、予約処理件数、レファレンス件数などサービス面の数値は高いのですが、他方で資料購入費が低水準にあり、司書の新規採用が20年以上されておらず、施設の狭隘化・老朽化も進んでいるなどの問題を抱えています。図書館に関して現在求められている具体的な施策はどのようなものとお考えになりますか。

資料購入費はもっと増やすべき。住民の知の要求に答える必要がある。  
土地開発公社等のムダな歳出を削減すれば、購入費に回せると考える。  
司書の採用はキチンと行なうべき。正規職員を削減するなど、もってのほかである。図書館は近くに用地を確保して増築する必要がある。改築か建て替えか検討し、一番良い方法で拡充すべきだ。

4. 昨今、図書館の管理運営について指定管理者制度の導入が広がりつつありますが、これについてどうお考えですか。あわせて、図書館が市の公共施設再編計画のなかに位置づけられていますが、これについてもお考えがあればお聞かせください。

**指定管理者には反対。民間委託は、商業ベースになり、利用頻度が少ない研究所や学術書などよりもベストセラー中心の蔵書管理となる。また、地元の書店の営業も圧迫する。図書館は市の直営でやるべき。各行政センターにある各地域図書館もそのまま残したい。**

5. 市の図書館は 5 館構想により各行政区に計画的に配置され、今のところ直営は維持されていますが、4 つある地域図書館のうち玉縄、腰越の図書館を嘱託職員中心の運営体制に変えられようとしています（図書館ホームページの図書館協議会答申、付帯意見、意見書等参照 <https://lib.city.kamakura.kanagawa.jp/associ.html>）。これについてどうお考えになりますか。

**嘱託職員中心に 4 つの地域図書館を変えようとしていることには反対。直営で正規職の手で運営すべき。コスト削減ばかり考えるのは間違っている。行政サービスとして、地域図書館には、これまで以上の経費をかけて良いと考える。コスト削減は別のところでやるべきだ。**